



9月定例会は9月19日から10月4日までの16日間開催されました。

教員の勤務実態調査の集計が公表されましたので報告します。

教員の勤務実態調査結果について

県教委は、教員の勤務実態調査を実施しました。対象者は県立学校5,419名、市町村立学校1,433名。回答率は県立学校が83.2%、市町村立学校は93.2%。教員全体に占める割合は、県立学校で83.2%、市町村立学校は11.9%になっています。

教員の1日あたりの学内勤務時間(出勤から退勤まで)

平日	小学校		中学校		高等学校	特別支援学校
	本県	文科省	本県	文科省		
校長	10:42	10:37	10:51	10:37	10:28	10:10
副校長・教頭	13:01	12:12	14:12	12:06	12:38	12:40
教諭	11:25	11:15	11:53	11:32	10:51	10:11
講師	10:38	10:54	12:10	11:17	10:47	9:39
養護教諭	10:14	10:07	10:21	10:18	9:51	9:51

土日	小学校		中学校		高等学校	特別支援学校
	本県	文科省	本県	文科省		
校長	1:02	1:29	1:29	1:59	1:25	1:09
副校長・教頭	2:04	1:49	2:14	2:16	1:17	0:47
教諭	1:10	1:07	3:27	3:22	3:07	0:21
講師	0:50	0:56	2:45	3:12	2:28	0:21
養護教諭	1:15	0:46	0:38	1:09	0:42	0:16

教員の1週間あたりの学内総勤務時間

	小学校		中学校		高等学校	特別支援学校
	本県	文科省	本県	文科省		
校長	55:38	54:59	57:15	55:57	55:14	53:09
副校長・教頭	69:17	63:34	75:29	63:36	65:46	64:56
教諭	59:30	57:25	66:19	63:18	60:33	51:38
講師	54:55	55:18	66:24	61:43	58:52	49:01
養護教諭	53:42	51:08	52:59	52:42	50:41	49:50

学内勤務時間と持ち帰り業務時間の比較

教諭	小学校		中学校		高等学校	特別支援学校	
	本県	文科省	本県	文科省			
平日	学内勤務	11:25	11:15	11:53	11:32	10:51	10:11
	持ち帰り	0:40	0:29	0:33	0:20	0:28	0:21
土日	学内勤務	1:10	1:07	3:27	3:22	3:07	0:21
	持ち帰り	1:04	1:08	0:44	1:10	0:35	0:33

中学校教頭は働きすぎ

左表でも明らかのように平日・土日ともほとんどの職種で勤務時間が長く、教頭は小・中学校ともに他の職種より顕著になっています。

学内勤務時間と持ち帰り勤務時間では平日は長いですが、土日はほぼ同程度と言えます。

中学校の約2/3が過労死ライン

本県の教諭は、国が示す「過労死ライン」に相当する「週60時間以上勤務」の割合は、小学校38.5%、中学校では63.6%にもなっています。

世界一多忙な現状

週の「労働時間は主要国で最も長い」が「授業に費やす時間は短い」と指摘されています。OECDが行った中学校等を対象とした調査によると、調査国平均で週38.5時間で、日本は週53.9時間と、唯一週50時間を超えています。

労働時間の上限規制を

その原因は、部活や学校行事、事務の多さが指摘されています。また、持ち帰りの仕事も多いと指摘されています。残業手当は月8時間分の勤務に相当する本給の4%が支給されているにすぎません。対策として、労働時間の上限規制と勤務間インターバルによる休息時間の確保が急務です。

風力発電の不都合な真実について

需要の100%を再生可能エネルギーで

県は「復興計画」の中で「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展する社会づくり」を基本理念に掲げ、「再生可能エネルギーの推進による新たな社会づくり」の取り組みを進めています。

2040年まで県内のエネルギー需要量の100%以上に相当する量のエネルギーを、再生可能エネルギーで生み出すことを目標としています。

風力発電の集中立地構想について

県は福島沿岸部風力発電構想(仮称)として南相馬、浪江、双葉、富岡、楢葉、広野の7町村、福島阿武隈風力発電構想(仮称)7市町にいわき、田村、川内、葛尾の4市町を加えた11市町村の丘陵地域などで国内最大級となる風力発電の実現を目指しています。

沿岸部については事業者の目途は立っていないが、阿武隈風力発電構想(仮称)が実現すると、165基以上の風力発電となる見込みです。

風力発電事業構想一覧 H29年9月以降設置を想定

環境影響評価 手続き中の構想

	事業名称	事業主体	設置場所	設備容量	備考
1	遠野風力発電事業	アカシア・リニューアブルズ株式会社	いわき市遠野町、三和町	86.4MW	3.2MW×27基
2	大滝山風力発電事業	JR東日本エネ開発株式会社 磐栄運送株式会社	郡山市、猪苗代町	150.0MW	2~3.6MW×50基
3	葛尾風力発電事業	葛尾風力株式会社	葛尾村、浪江町	15.0MW	2.5MW×6基
4	馬場山風力発電事業	JR東日本エネ開発株式会社	いわき市	36.0MW	2~3.6MW×10~18基
5	川内鬼太郎山風力発電事業	JR東日本エネ開発株式会社	川内村	47.6MW	3.4MW×10~14基
6	須賀川・玉川風力発電事業	くろしお風力発電株式会社	須賀川市、玉川村	27.6MW	2.3MW×23基 もしくは0.8MW×34基
7	阿武隈南部風力発電事業	エコ・パワー株式会社	いわき市、広野町 楢葉町	175.0MW	2~3.5MW×50基
8	三森峠風力発電事業	日本風力開発株式会社	郡山市、須賀川市	90.0MW	2~3.6MW×20~25基
9	阿武隈風力発電事業	福島復興風力株式会社	田村市、川内村、大熊町、浪江町、葛尾村	234.6MW	2.5~3.4MW×69基
11	吾妻高原ウインドファーム	株式会社吾妻高原ウインドファーム	福島市	32.0MW	2~3.5MW×16基
12	田人風力発電事業	株式会社ユーラスホールディングス	いわき市	21.6MW	3.6MW×6基
13	三大明神風力発電事業	株式会社ユーラスホールディングス	いわき市	35.7MW	2.1MW×17基
14	沢又山高原風力発電事業	沢又山風力発電株式会社	須賀川市、玉川村 平田村	34.5MW	2.3MW×15基
15	羽鳥湖高原風力発電事業	株式会社ユーラスエナジージャパン	天栄村、白河市 西郷村	101.2MW	事業廃止
16	CEF福島黒佛木ウインドファーム事業	クリーンエナジーファクトリー株式会社	川内村	65.0MW	2.5MW×26基
17	CEF福島楢葉ウインドファーム事業	クリーンエナジーファクトリー株式会社	楢葉町	40.0MW	2.5MW×16基

環境影響評価 未手続き(配慮種まで)の構想

	事業名称	事業主体	設置場所	設備容量	備考
18	いわき神楽山風力発電事業	JR東日本エネ開発株式会社	いわき市	61.1MW	3.4MW×23基
19	川内村上川内風力発電事業	会津電力株式会社	川内村	7.0MW	3.2MW×3基

下表の黒塗り部分は県の構想に入っており、他は事業者独自の開発になります。下表の風力発電が実現すると475基以上の風力発電となり、日本でも最大規模の風力発電所となる見込みです。

電力にも、CO₂削減にも貢献しない

原発事故を契機に再生可能エネルギーに注目が集まっています。

風力発電はもともと風任せの発電なので、電力が安定しません。既存の電力網に風力発電を組み込んでいますが、風向きによって激しく電力が変化するため既存の電力網に影響を与えない時(風力の電力量が全体の誤差の範囲)だけ受入れています。風が強くなって発電量が大きくなると、既存の電力網を不安定にするので、その時は風力発電所からの電力は全てカットするそうです。

欧州では風力発電はいつ止まるか分からないので、火力発電をアイドルの状態に常にスタンバイしているのでCO₂の排出が増えたと言われています。

停電すると発電できない

風力発電はブレード（羽）をモーターの力で強制的に風上に向けてすることで発電しているため、停電すると発電はできず、また自動停止もできなくなるので壊れてしまいます。

高さは80～135mと巨大で、20～40階建ての建物に相当します。設置するには直径200mの平坦な土地が必要になります。

風速 12m/s の風はめったに吹かない

風力発電所の定格出力（最大出力）で発電できるのは、風速12～25m/sのかなり強い風の時で、しかも風速25m/s以上の風では自動停止してしまいます。

風速12m/s以上の風とは「大枝が動く」「電線が鳴る」「傘が差しにくい」ような風のことで、それではじめて定格出力になります。しかしいわきに計画されている場所では平均5～6m/sです（事業化の目安平均6m/s）。

風速6m/sでは、出力は8分の1に

普段私たちが風が強いと感じるのは風速が6m/s程度と言われています。砂埃が立ち、紙片が舞い上がる風で、出力は8分の1です（風力発電の出力は風速の3乗に比例する）。

地方交付税は減額される

風力発電所ができることによるメリットは、陸地の場合は地主に借地料が入る、洋上の場合には漁業補償が入ることです。

自治体には法人税と固定資産税が入ることになりますが、地方交付税が減額されます。その結果、プラスマイナスゼロになります。

本当に雇用は生まれるのか？

地元で期待したのは雇用・仕事が増えることですが、特殊な技術なので、先進地域では地元業者に仕事がこなかったと言われています。

福島はその轍を踏まないような仕組みづくりが不可欠です。

必要な時に使えない不安定な発電

風力発電は風が強い時間しか発電できません。1年間を通じて一般家庭の電気を風力発電でまかなうには無理があります。真冬の深夜に強風で発電したとしても使いようがなく、真夏の昼下がりが電力需要がひっ迫しても、強い風が吹かなければ使えません。

安定供給は現実的に無理

電気は同時同量の発電をしないと停電を引き起こします。火発は数分単位で調整しています。風力発電は傘がさしにくいほどの風が吹いた時間帯だけ発電できます。つまり、朝から風が強く吹き出し、夜風が止むなど現実的にはあり得ないので、無理です。

自然破壊も想定される

風力発電が引き起こすデメリットは、自然と景観が大規模に破壊されるということです。土砂崩れなどの災害の危険性が発生し、騒音や低周波音による被害も指摘されています。

CO₂削減に効果なし

風力発電はCO₂削減に貢献できるのか。

電力会社は「風力発電ができからといって、原発や火発の出力を下げたことはない」としています。理由は「電力系統全体の1～2%以下なのでその必要はない。誤差の範囲。増えたら揚水発電で吸収する」ということのようにです。

北海道電力や東北電力は、風の強い日には火発の出力を下げずに風力発電の送電を停止しています。「風力発電は風によって変化します。それに合わせて火発の出力を調整するより、風力発電の電気を切った方が安くつく」と言っています。

大成功といわれているヨーロッパでもCO₂は減少せずに増えています。ドイツは電力全体の4.4%が風力発電ですが1.2%増加しています。

被害は夜間停止と二重サッシで対応

風力発電所は、全国的に夜間停止という措置が取られていると言われています。それが最初に実施されたのは愛媛県伊方町です。山間部で騒音が雲に反射するスカイレフレックスという現象がおこり、騒音が山びこのように反射し、大きな被害が出ています。音は聞こえないが戸や置物が震えだすという被害が1.5Kmぐらいのところで起きています。

高齢になると高音域は聞こえにくくなりますが、低音域は聞こえますので、高齢者の被害が深刻になります。

妥当な距離は3.2km～4km

風車からどれくらい離ればよいのか？800キロワットの風車の場合（県内に計画されている風車は2,000キロワット以上）、アメリカで800m、フランスやカナダでは1.5km、イギリスでは4km以上離すべきとされており、妥当な距離と言われています。山間部では3.2km離すべきと言われています。

風車と住居の距離が接近しすぎ

いわき市に計画されている（仮称）遠野風力発電事業は2メガ～3.2メガワット、最大27基で総出力86.4メガワットになります。遠野町、三和町にまたがり事業実施区域内には87戸の住居および三和中学校、三和ふれあい館デイサービスセンターが存在します。周辺2kmには、644戸の住宅等が存在します。

ブレード（羽）の直径10倍の範囲内1.05kmには258戸の住居等の施設が存在し、合計345戸の住居等の施設が存在しています。

避けるべき地域をゾーニングした長野県

阿武隈の丘陵地帯に風力発電が集中立地されることになりましたが、環境への負荷と周辺住民への影響について厳格に評価することが重要です。

避けるべき地域をゾーニングし、効果を上げたのは長野県です。法規制地域や猛禽類の生息地、貴重な動植物の生息地などを地図に落とし、避けるべき地域や慎重に検討する地域を明示したものを作成しています。

ドイツでは州政府が郡ごとに地図を作り規制しています。環境省は「適地」選定のゾーニングを進めようとしていますが、機能していません。

福島県へゾーニングを求める！！

私は9月議会の企画・環境常任委員会で、県に「ゾーニングをすべきではないか」と環境影響調査を所管する環境共生課に質問しました。

県は、「大規模開発を規制する土地・水調整課などと協議をしながら進めていきたい」と答弁。

関係課との協議による規制を求める！！

県には、再生可能エネルギーを推進するエネルギー課、開発を規制する土地・水調整課、環境影響評価を所管する環境共生課があり、アクセル役のエネルギー課とブレーキ役の土地・水調整課、仲を取り持つ環境共生課となっています。関係課と協議して、避けるべき地域を指定するなど住民安全・安心と環境負荷の低減する規制を求めました。

困難な風車の撤去問題について

最近大きな問題になっているのは風車の撤去費用です。中型機（750キロワット）でおおよそ8,000万円と言われています。輸送と跡地の整地を入れると1億円くらいになると試算されています。4メガワットだと単純に4倍とまではいかないまでも莫大な費用が想定されます。事業者が資金力がない場合は誰が負担するのか、県の負担になるとも言われています。事業者がいなくなってしまうらどうなるのか。困難な問題が残る風力発電設置ということになります。

会社はともかく、一般人は出資しない方が無難と思われれます。